

# 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会  
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8  
(社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内)  
電話 (03) 5272-1210  
FAX (03) 5272-1213  
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

第97号

平成23年1月7日発行

# 会報

## 第53回全国大会(山形大会)への ご協力を有難うございました!



ご参加をお待ちしています。

さて、平成22年6月に「障害者制度改革の推進のための基本的な方向(第一次意見案)」が示されました。大変、短期的な結論にも驚きました。推進会議の教育関係の主な問題認識は「地域における就学と合理的配慮の確保」と明記されました。

しかしながら、障害のある子どもたちに必要な体制・教育整備等の議論は尽くされておらず、インクルーシブ理念が先行した第二次意見案と受け止めざるを得ません。

また、同年7月12日、中央教育審議会初等中等教育分科会において、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」が設置されました。

7月20日には、第1回の特別委員会が開催され、全肢P連も文科省からの委嘱により、代表者が委員として参画したところです。

今後の特別委員会のインクルーシブ教育システムの構築に向けた協議に期待していますが、なによりも、これまで積み上げてきた特殊教育から特別支援教育へと改革してきたことを踏まえ、「子どもたちに必要な教育はどうあるべきか」を大切に議論していただきたいと思います。

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会  
会長 濱川 浩子  
(東京都立墨東特別支援学校PTA会長)

特別支援教育は、まだ、未完成的な教育なのだと思います。交流および共同学習の整備、学校におけるセンタリの機能の推進、教員養成の在り方、まだまだ整備、充実の努力が必要なのです。

私たち保護者も、子どもたちの学校がより良い学校になるように学校運営に協力し、教員と一緒に取り組む、また先生方にもしっかりと教育指導、家族支援をしてほしいと願っています。

保護者は子どもたちの身近な情報提供者です。まずは本人と保護者と先生と子どもを真ん中において、しっかりとコミュニケーションを取りながら、子どもと一緒に支援の輪を作り上げていく必要があります。

時間はかかっても日本の社会全体がインクルーシブ理念を理解することで、特別支援教育は日本型のインクルーシブ教育システムにより近づいていくのではないかと思います。



山形大会企業展示

### 【全肢P連会報 編集コラム】

酷暑の夏が終わり、秋と冬が一緒に来てしまったような気配ですね。

今回の会報は、東京都から保護者研修会の報告と肢体不自由教育校長会の全国大会(奈良大会)を掲載いたします。奈良は遷都1300年祭ですから、活気ある奈良で先生方はしっかりと研修なさったのではないのでしょうか、保護者の皆様ぜひご一読ください。

《事務局長 佐竹京子》

# 第五十六回全国肢体不自由教育校長会・研究協議会「奈良大会」報告

平成二十二年十一月十日から十二日の三日間の日程で、奈良県奈良市において、第五十六回全国肢体不自由教育研究協議会「奈良大会」が開催されました。

例年、秋に行われるこの大会では、第一日目が、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会（全肢長会と表記）の研究協議会の場となつています。また、二・三日目は、全国肢体不自由教育研究協議会（全肢研と表記）として、第一日目参加の校長に加え、全国からこの教育に携わる教職員や関係者総勢四百余名が参加する全国規模の重要な大会となっております。

本誌面をお借りして、今回の全肢長会研究協議会と全肢研の概要についてご紹介します。

**日程** 平成二十二年十一月十日（水）

**会場** 奈良市 奈良ロイヤルホテル

**対象者** 全国の肢体不自由特別支援学校校長（全肢長会会員）

**参加** 加百二十七名

**内容** 代表者研究協議会

開会式・全体研究協議会

専門委員会・特別委員会

分科会

各会議等の概略を以下にまとめました。

## 1へ 代表者研究協議会

この会は、全国各地の校長の代表者と役員が年3回一堂に会し、直近の課題の解決や今後の会の充実に向けて報告・協議や研究を行う場です。

**報告・協議①** 国の障害者制度改革の動きと全肢長事務局の対応について報告がなされました。平成二十二年七月二十六日の内閣府で行われた障がい者制度改革推進会議でのヒアリングでは、全肢長会事務局から意見陳述をしたこと。特にその中では、医療的ケアの肢体不自由校における実態と実績を踏まえ、保護者の声も含めて発言したこと等詳しく報告がなされました。

**報告・協議②** 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会が厚生労働省内に設置され、検討が進んでいることが、検討会に招聘されている校長から報告されました。

**提案・協議①** 教員の世代交代が進み、経験の浅い教員が増加していく状況を踏まえ、指導のノウハウを次世代教員に引き継ぎ、質の高い指導を維持・発展させるために「自立活動を主とする教育課程における指導資料の作成に向けて」と題し、全国の校長が協力して重度障害の児童・生徒の指導に関する手引き作成のための具体的な検討を行いました。



開会式 土井全肢長あいさつ

1 的機能等について提案・協議する分科会、寄宿舎教育とともに、自宅等から通学する児童生徒の生活指導についても提案・協議する分科会等、今日的な状況を踏まえた方向性が提案・協議され、具体化に向けて準備を進めていくことになりました。

## 2へ 開会式・全体研究協議会

テーマ「特別支援教育の発展のため肢体不自由教育が担うべき役割と学校経営の在り方」

### 提案「専門性向上の取組」

愛知県立豊橋養護学校長

横井 弘

### 指導助言及び行政説明

文部科学省初等中等教育局特別支援

教育課特別支援教育調査官

下山 直人先生

## 3へ 専門委員会・特別委員会

各課題別の専門委員会等に分かれて、全国各ブロックの担当校長が、課題に関する地域の情報を持ち寄り情報交換します。（内容は省略）

教育課程専門委員会／法制制度専門委員会／施設設備専門委員会／人事厚生専門委員会／進路福祉専門委員会／支援連携専門委員会／基本問題検討特別委員会

## 4へ 分科会

### ①「学校経営」分科会

#### 提案1

「楽しく働く学校作り・・・」

意思決定の明確化や一人一研究をとおして

静岡県立中央特別支援学校校長

石見 良憲

**提案・協議②** 次年度の全肢研「高知大会」に関して、その内容の一層の充実を目指して、分科会構成の検討を行いました。これまで、時々の教育課題を加えながら変遷してきた分科会構成ですが、現在、教員・保護者の最大のニーズである質の高い授業の実現に向けて、授業改善の方法を提案・協議する分科会、準ずる教育課程における教科指導の計画や指導の工夫を提案協議する分科会、知的代替の教育課程における教科等指導の計画・工夫を提案・協議する分科会、自立活動を主とする教育課程における学習指導の計画・工夫を提案・協議する分科会、進路指導とともに、キャリア教育の計画や実践についても提案・協議する分科会、地域との連携という大きな視点で、個別の支援計画の活用や交流及び共同学習やセンタ

## 提案2

「外部専門家を活用した教員の専門性向上」

長崎県立諫早特別支援学校長

楠 忠幸

## ②「研究研修・教育課程」分科会

### 提案1

「あたらしい学校作りに向けて」

横浜市立上菅田特別支援学校長

吉野 京視

### 提案2

「肢体不自由のある子どもための授業改善」

高知県立高知若草養護学校長

入交 宏和

全肢長会の活動は、年間を通じて担当別に様々行われていますが、全ての校長会員が参加できる場合は、例年、六月に行われている全国特別支援学校長会全国大会の中で設定されている肢体不自由校長会の総会等とこの秋の研究協議会の二回のみです。春の会合は、総会議事が大半で、研究協議の時間は十分には取れないのが実状です。一方、この秋の大会は肢体不自由教育に的を絞った会であることと、二学期後半という時期もあり、その年度に各校が進めている学校経営の実践や教育実践を持ち寄り、時間を十分にとって協議し合える良さや2・3日目の全肢研に連なって、多くの教職員が工夫された実践を持ち寄ることから、多様で有効な情報が得られる良さも他では得られないものです。

では奈良大会2・3日目に当たる全肢研のあらましを以下にご紹介します。

日程 平成二十二年

十一月十一日(木)～十二日(金)

会場 奈良養護学校・県文化会館等

対象者 全国の肢体不自由特別支援学校

教職員及び関係者

参加約五百八十三名

## 1(学校見学)

今回、大会事務局の意向により開会式前に学校見学が組み入れられました。奈良県内には、今回の大会事務局の置かれている明日香養護学校と奈良養護学校の2校の肢体不自由校が設置されていますが、この奈良養護学校を見学会場に、奈良県庁前から貸切バス7台に分乗して向かいました。二百七十八名の見学者を滞りなく誘導したスタッフの準備と目配り・気配りにも目を見張りましたが、見学内容も収穫多いものでした。特に多くの校長が熱心に写真撮影していたのは、教材室でした。各教室の中央に位置し、認知発達別・課題別に整然とあらゆる教材が配列され、すぐにでも取り出し、活用できるようになっていました。的確な説明や一覧表も掲示され、実用化されていることがよく分かりました。また、「社会参加学習」等、実際の授業も数多く参観でき、実り多い見学となりました。

## 2(ポスター発表)

学校見学から奈良県文化会館に戻り、ロビーでのポスター発表は、自由な情報収集タイムです。各発表は次のとおりです。(大会事務局発行の奈良大会実施要項より引用。副題名・発表校名・発表者名は省略)

①「ふり返りカード」を活用したチーム力を発揮する授業作り

② 指欠損のある肢体不自由児の書字能力を高める指導事例

③ 自立活動校内相談体制(整形相談・発達相談・こども自立相談)

④ 翔君との「はみがき」の学習

⑤ 「準ずる課程」で学習している生徒の自立活動「身体の動き」に関する日常生活における動作支援

⑥ 「人との関わりを楽しむことができる」を目指して

⑦ 障害児(者)の家庭生活・地域生活の質の向上につながるボランティア活動をめざして

⑧ 肢体不自由のある子どもの主体性を引き出す指導についての研究

⑨ 授業者支援会議システムによる授業改善  
⑩ 脳性まひ児の障害特性をふまえた体育における指導実践

## 3(開会式)

### 4(基調提案)

演題「特別支援教育の動向と

今後の肢体不自由教育について」

講師 文部科学省初等中等教育局特別

支援教育課 特別支援教育調査官

下山 直人 先生

下山先生からは、特別支援教育を取り巻く状況として、障害者制度改革を巡り、制度改革の基本的な考え方、障がい者制度改革推進会議の第一次意見、閣議決定の内容、中央教育審議会特別支援教育の在り方に関する特別委員会の検討状況、医療的ケアの在り方に関する検討等について説明していただきました。後半では、特別支援教育の現状と施策について詳しく解説をいただいた上で、この現状を踏

まえた肢体不自由教育の課題としてインクルーシブ教育の方向性を踏まえること、一人一人の能力を最大限度まで発達させる教育を追求すること等の御提言をいただきました。

## 5(分科会)

個別の教育支援計画/教育課程・学習指導・個別の指導計画/訪問教育/自立活動/健康教育/情報教育・支援機器の活用/交流及び共同学習/進路指導/寄宿舎教育/センター的役割

## 6(全体会)

演題「授業と教師の専門性について」

講師 筑波大学附属桐が丘特別支援学校

校長 安藤 隆男 先生

安藤先生からは、授業と教師の専門性について、学術論文等も引用しながら、教える経験に伴う授業イメージの変容や教師の「授業イメージ」の形成について解説していただきました。後半では、特に重度重複障害教育の特徴と教師の成長について御教示いただきました。

## 7(閉会式)

高知県立高知若草養護学校入交宏和校長から高知大会の御案内がありました。

以上、大会のごく一部を御紹介しましたが、全国から多くの校長・教職員等が集まり、学校経営の新たな取り組みや授業改善の工夫などについて意見交換するなど、この教育の充実とよりよい学校づくりを目指して切磋琢磨し合いました。

(文責 全肢長会事務局 田村康二朗)

# 全肢P連国庫補助事業「保護者研修会」

「テクノエイドを通して楽しくライフステージを考えよう」

講師 東洋大学 ライフデザイン学部 教授 繁成 剛氏

「わかりやすい、シーティング講座」

講師 (株)アクセスインターナショナル 代表取締役社長 山崎 泰広氏

平成二十二年十一月十七日(水)東京都立墨東特別支援学校の体育館において、保護者研修が行なわれました。今回は、自立活動分野のお話しを二名の講師にお願いしました。一名は、東洋大学教授の繁成剛先生、もう一名は、アクセスインターナショナル代表の山崎泰広氏です。

## ○繁成 剛氏

繁成先生は、北九州にある療育センターで二十年間、障害のある子どもと親たちが楽しく生活が送れるように様々な補助器具(テクノエイド)をデザインし、企業と共同で開発してきました。特別支援学校で使用されているSRCウオーカーを開発した方です。

自立を促し、QOLを高める要素として、姿勢保持、移動、コミュニケーションがあり周囲の支えや励ましを受けながら環境設定をしていく。その中でテクノエイド(補助器具)の役割として

- ① できることを増やす。
- ② 自発性を引き出す。
- ③ 自立(自律)する力を育てる。
- ④ 生活する技術(スキル)を身に付ける。
- ⑤ 社会性、コミュニケーション能力を高める。
- ⑥ 自己を表現する方法を見つける。
- ⑦ 親や支援者と楽しむ。

以上7点をあげ、それぞれについて具体的

な内容にて具体的な説明がありました。

最後に『テクノエイドの理想的なスパイラルとして「支援技術、テクノエイドを活用」して「意識が変わる」「周囲が変わる」「社会が変わる」「可能性に目覚める」などの変化がおこるように考えていってほしい。』というお話がありました。

## ○山崎 泰広氏

山崎さんは、高校時代、アメリカ留学中転落事故で半身不随となり車いすによる床ずれに苦しむが、シーティングに出会い完治しました。その経験から「シーティング」を学び、その考えを広めるためにセミナーを開き、また、必要な車いすやシーティング機器を提供しています。

この日の講演は、山崎氏の著書『運命じやない！シーティングで変わる、障害児の未来』の内容でした。

「障害を負ったのだから二次障害の発生をしようがないと諦めず、シーティングの適切な設定によつて姿勢を改善することで防止できる。具体例を挙げながら、障害児者の変形の予防や悪化防止、褥瘡の予防が

でき、また快適な生活が可能になることにより、様々な可能性が広がる。早い時期に改善することが、関節等の可動性があるうちの方が、より改善につながる。」というお話でした。

当日は、百名を越える保護者の方が参加されました。講師の先生のお話はお一人一時間あまりでしたが、どちらももつと詳しくお話を伺いたいものでした。終了後、シーティング機材によるデモンストレーションを実施しました。具体的に子どもについての質問が、熱心に出され、大変、内容の濃い研修会になりました。

(東京都立墨東特別支援学校

副校長 山崎 久美)



東洋大学 教授 繁成 剛氏



株式会社アクセスインターナショナル 代表取締役社長 山崎 泰広氏